

平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題名	「勢農ブランド確立への挑戦！未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発 ～ 地方創生や成長産業としての農業を担うための資質・能力の育成 ～」		
2 研究の概要	<p>地方創生や農産物の輸出等に果敢に挑戦しようとする将来のスペシャリストの育成を目的に、生涯にわたって自ら考え課題を解決していく力や主体的に行動できる力（課題解決実践力）を持った人材の育成に必要なカリキュラムや学習指導法、地域連携の研究、さらにはキャリア教育の在り方について研究する。</p> <p>(1) 学習指導法等の研究 農業の専門科目では、学校設定科目*「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」を設定するとともに、各学科の中核科目においてプロジェクト学習法を取り入れ、主体的・協働的な学習活動を展開することにより、課題解決実践力を育成する。 *各学科に設置する学校設定科目。「植物バイオテクノロジーと地域連携Ⅰ」のように「コース名と地域連携Ⅰ」「コース名と地域連携Ⅱ」とする。</p> <p>(2) 地域連携の研究 地域資源を活用したプロジェクト活動を全学科で展開し、関係機関等との連携強化を図りながら、「勢農ブランド」として発信できるモデル事業等の研究を行う。</p> <p>(3) キャリア教育の研究 専門高校におけるインターンシップの効果的な実施方法や、専門科目内でのキャリア教育の指導法について研究する。</p>		
3 平成28年度実施規模	全校生徒を対象に実施した。		
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1" data-bbox="183 1384 1396 2049"> <tr> <td data-bbox="183 1384 359 2049">第1年次</td> <td data-bbox="359 1384 1396 2049"> <p>ア 学習指導法等の研究</p> <p>(ア) 本年度実施の「農業と環境」の指導法及び学校設定科目「農業と人間」の内容・指導法を検討し実践する。</p> <p>(イ) 次年度以降に実施する学校設定科目「農業経営実践」「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」の内容・指導法を検討する。</p> <p>(ウ) 次年度以降に実施する各科の中核（農業）科目において、プロジェクト学習法を導入するための内容・指導法を検討する。</p> <p>(エ) 普通教科で農業の専門分野と関連性を持たせる授業展開をするための教材（題材）開発を進め、1年次に導入できるものは実践していく。</p> <p>(オ) 専門学科講師派遣事業では、1年の各学科に「キャリア教育に関する分野」「民間、行政関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演を実施し、農業クラブ研究部員を中心に「大学関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演会を実施する。</p> <p>(カ) 校内に常設の農産物直売所を設置し、運営方法等を検討する。</p> <p>(キ) 学科の専門分野を生かした分野間の連携内容を検討する。</p> <p>(ク) 本校における評価法を検討する。</p> </td> </tr> </table>	第1年次	<p>ア 学習指導法等の研究</p> <p>(ア) 本年度実施の「農業と環境」の指導法及び学校設定科目「農業と人間」の内容・指導法を検討し実践する。</p> <p>(イ) 次年度以降に実施する学校設定科目「農業経営実践」「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」の内容・指導法を検討する。</p> <p>(ウ) 次年度以降に実施する各科の中核（農業）科目において、プロジェクト学習法を導入するための内容・指導法を検討する。</p> <p>(エ) 普通教科で農業の専門分野と関連性を持たせる授業展開をするための教材（題材）開発を進め、1年次に導入できるものは実践していく。</p> <p>(オ) 専門学科講師派遣事業では、1年の各学科に「キャリア教育に関する分野」「民間、行政関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演を実施し、農業クラブ研究部員を中心に「大学関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演会を実施する。</p> <p>(カ) 校内に常設の農産物直売所を設置し、運営方法等を検討する。</p> <p>(キ) 学科の専門分野を生かした分野間の連携内容を検討する。</p> <p>(ク) 本校における評価法を検討する。</p>
第1年次	<p>ア 学習指導法等の研究</p> <p>(ア) 本年度実施の「農業と環境」の指導法及び学校設定科目「農業と人間」の内容・指導法を検討し実践する。</p> <p>(イ) 次年度以降に実施する学校設定科目「農業経営実践」「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」の内容・指導法を検討する。</p> <p>(ウ) 次年度以降に実施する各科の中核（農業）科目において、プロジェクト学習法を導入するための内容・指導法を検討する。</p> <p>(エ) 普通教科で農業の専門分野と関連性を持たせる授業展開をするための教材（題材）開発を進め、1年次に導入できるものは実践していく。</p> <p>(オ) 専門学科講師派遣事業では、1年の各学科に「キャリア教育に関する分野」「民間、行政関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演を実施し、農業クラブ研究部員を中心に「大学関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演会を実施する。</p> <p>(カ) 校内に常設の農産物直売所を設置し、運営方法等を検討する。</p> <p>(キ) 学科の専門分野を生かした分野間の連携内容を検討する。</p> <p>(ク) 本校における評価法を検討する。</p>		

	<p>イ 地域連携の研究</p> <p>(ア) 全学科で取り組む地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動を立ち上げ、実践していく。</p> <p>(イ) 既存の高大連携は継続実施し、新規の連携先を開拓する。</p> <p>(ウ) フィリピン大学ロスバニヨス校附属ルーラル高校との交流活動において、農業のグローバル化を盛り込んだ活動を実践する。</p> <p>(エ) 地域交流活動の充実を図り、学校全体の一元化したネットワークの構築に取り組む。また、新たな地域連携の開拓や指導人材の発掘を行う。</p> <p>ウ キャリア教育の研究</p> <p>(ア) 1年次短期インターンシップ(全員)、2年次長期インターンシップ(全員)、3年次デュアルシステム(希望者)の系統的なインターンシップを全学科で実施をし、より効果的なインターンシップの方法を研究する。</p> <p>(イ) 次年度以降の2・3年生における専門科目内でのキャリア教育の在り方や位置付け、指導法を検討する。</p>
第2年次	<p>ア 学習指導法等の研究</p> <p>(ア) 1年目に開発した「農業と環境」「農業と人間」の教材や学習活動を更に改善・充実させ、生徒の学習活動の到達度を高め、その成果と課題を明確にする。</p> <p>(イ) 1年目に開発した「農業経営実践」「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」の教材や学習活動を評価し、その成果と課題を明確にする。</p> <p>(ウ) 普通教科での教材開拓や授業展開を進め、生徒の学習の到達度を評価し、その成果と課題を明確にする。</p> <p>(エ) 事業対象学年となる2学年に対し、継続的に「専門学科講師派遣事業」を実施し、当該授業における生徒の学習の到達度を評価する。</p> <p>(オ) 直売所の運営を検証し、その成果と課題を明確にし、更なる改善・充実を図る。</p> <p>(カ) 事業ごとに、適切な評価方法及び検証方法を引き続き検討する。</p> <p>イ 地域連携の研究</p> <p>(ア) 実施した地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動から、評価と課題を明らかにして、更なる改善・取組を図る。</p> <p>(イ) 1年目の高大連携事業の取組から、その成果と課題を明確にし、更なる改善・充実を図る。</p> <p>(ウ) フィリピン大学ロスバニヨス校附属ルーラル高校との交流活動において、考案した交流活動を実施し、生徒の学習の到達度を評価する。</p> <p>(エ) 1年目までの連携先をまとめ、外部機関との連携を一元化できるシステムの構築を行い、新たな連携先の開拓を引き続き行う。</p> <p>ウ キャリア教育の研究</p> <p>(ア) 1年目に改善したインターンシップを実施し、生徒の到達度や達成度を評価する。また、受入企業からの評価を加え、効果的なインターンシップの形態を検証する。</p> <p>(イ) 1年次に検討したキャリア教育の指導法を検証し、効果的な指導法を引き続き検討する。</p>
第3年次	<p>ア 学習指導法等の研究</p> <p>(ア) 「農業と環境」と「農業と人間」との接続やキャリア教育、プロジェクト学習法の取組を評価し、その成果と課題を明確にして指導法・指導内容を確認</p>

立する。

(イ) 「農業経営実践」「地域連携Ⅰ・Ⅱ」「農業マーケティング」の開発・蓄積された教材や学習活動を評価し、その成果と課題を明確にして、指導法・指導内容を確立する。

(ウ) 普通教科での教材開拓や授業展開を進め、生徒の学習の到達度を評価し、その成果と課題を明確にして指導内容を確立する。

(エ) 改善した「専門学科講師派遣事業」を実施し、当該授業における生徒の学習の到達度を評価し指導内容を確立する。

(オ) 直売所の運営を検証し、その成果と課題を明確にし、更なる改善・充実を図る。

(カ) 各教科、事業ごとに、適切な評価方法及び検証方法を検討し、評価法を確立する。

イ 地域連携の研究

(ア) 実施した地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動から、評価と課題を明らかにして、継続的に改善・取組を図る。

(イ) 3年間の高大連携事業を総括し、評価と課題を明らかにして、継続的に改善・取組を図る。

(ウ) フィリピン大学ロスバニヨス校附属ルーラル高校との交流活動において、考案した交流活動を実施し、生徒の学習の到達度を評価しながら改善を進める。

(エ) 2年目までの連携先をまとめ、外部機関との連携を一元化できるシステム構築及び新たな連携先の開拓を引き続き行う。

ウ キャリア教育の研究

(ア) 改善したインターンシップを実施し、生徒の到達度や達成度を評価する。また、受入企業からの評価を加え、効果的なインターンシップの形態を継続的に検証する。

(イ) 改善したキャリア教育の指導法を検証し、当該授業における生徒の学習の到達度を評価し、指導法を確立する。

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし。

○平成28年度の教育課程の内容（平成28年度教育課程表を含めること）

本年度の教育課程については、本事業による特別な変更はない。

○具体的な研究事項・活動内容

ア 学習指導法等の研究

(ア) 「農業と環境」の指導法の研究及び学校設定科目「農業と人間」の内容・指導法の研究
「農業と環境」では、全学科でのプロジェクト学習法の導入や「課題発見力」の育成を図る指導法の研究を行った。また、学校設定科目「農業と人間」では、「農業と環境」と連動させ、両科目での農業の基礎的な知識や技術の習得、進路啓発、「課題発見力」の育成の研究を行った。

(イ) 学校設定科目「農業経営実践」「地域連携Ⅰ」「地域連携Ⅱ」「農業マーケティング」の内容・指導法の研究

「農業経営実践」では今後の農業の方向性を見据え、GAP（適正農業規範）や有機認証制度等の概念や取組、農畜産物の6次産業化の取組を学科ごとに検討し、現生徒（2・3年生）への先行導入を試みた。

来年度、新規導入される「地域連携Ⅰ」と再来年度導入の「地域連携Ⅱ」は、科目の系統性等を考え、各学科・コースごとに2科目の教育課程の位置付けや目標、学習内容等を検討

した。

「農業マーケティング」は3年次導入の科目ではあるが、新たに導入される「地域連携Ⅰ・Ⅱ」の関連性を考え、上記と同様に科目の目標と内容を検討した。

(ウ) 各科の中核（農業）科目の内容・指導法の研究

次年度以降、各科の中核（農業）科目でプロジェクト学習法を導入した授業展開を行うための内容・指導法等を学科・コース毎に検討した。

(エ) 普通教科との連携強化の研究

普通教科内で、農業を教材にした学習展開を検討し、実行できるものについては授業に取り入れ先行実践した。

(オ) 専門学科講師派遣事業の内容の研究

1年の全学科に「キャリア教育に関する分野」「民間、行政関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演を実施した。また、農業クラブ研究部員を中心に「大学関係講師による専門知識・技術に関する分野」の講演会を実施した。さらに、SPH事業を推進する上での教員の指導力向上を目指し、教員向けの講義を実施した。

(カ) 勢多農林直売所を活用した流通学習の指導法の研究

校内設置の直売所について、今年度内での設置を目指して取り組みを進めた。また、運営方法についても同時進行で検討を行った。

(キ) 学科間連携の研究

学科の専門分野を生かした分野間の連携を学科毎に検討した。

(ク) 評価法の研究

明確な目標となる全校統一のルーブリック評価を検討した。

イ 地域連携の研究

(ア) 地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動の研究

学科の枠を超えての相互乗り入れのプロジェクト活動として「桑の葉パウダーを利用した地方創生プロジェクト」を立ち上げた。また、各々の研究部が取り組んでいる地域連携等のプロジェクト活動は、継続的かつ発展的に行われた。

(イ) 高大連携事業の研究

既存の高大連携事業を継続的に取り組んだ。また、新規の連携先の開拓は学科毎に検討を行った。

(ウ) フィリピン大学ロスバニヨス校附属ルーラル高校との交流活動の研究

新たな交流内容として、フィリピンでの起業組織体のNPO法人ユニカセでの活動とフィリピンでの日本食文化や日本製品に対する意識調査を行った。

(エ) 連携先のネットワーク構築の研究

既存の連携先である大学や研究機関、JA、先進農家等との連携強化や、飾花活動等の地域交流活動の充実を図り、学校全体の一元化したネットワークの構築に取り組んだ。また、新たな地域連携の開拓や指導人材の発掘を行った。

ウ キャリア教育の研究

(ア) 系統的なインターンシップの研究

1年次短期インターンシップ(全員)、2年次長期インターンシップ(全員)、3年次デュアルシステム(希望者)の系統的なインターンシップを全学科で実施し、より効果的なインターンシップの方法を研究した。

(イ) 専門科目内でのキャリア教育の指導法の研究

2・3年次の専門科目内におけるキャリア教育の在り方や位置付け、指導法を検討した。

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価 (生徒の評価は、アンケートを実施し定量目標を4段階で3.0と設定した)

ア 学習指導法等の研究

(ア) 「農業と環境」の指導法の研究及び学校設定科目「農業と人間」の内容・指導法の研究

①「農業と環境」での生徒のアンケート結果は評価の平均点がほぼ3.0であったことから、達成型プロジェクト学習を年2回実施したことにより、専門的な知識・技術の向上が図られ、プロジェクト学習法の基本を身に付けることができたと考えられる。

記録簿は記入回数を重ねるにつれ、記入量も増えてきて、問題発見やその解決策を少しずつ考えられるようになってきた。

②「農業と人間」での生徒の評価平均点は3.0であったことから「農業と環境」と連動させることにより、農業や専門分野への興味・関心、理解度が高まったり、学習意欲も向上し、進路への意識付けができたと考えられる。

(イ) 学校設定科目「農業経営実践」「地域連携Ⅰ」「地域連携Ⅱ」「農業マーケティング」の内容・指導法の研究

先行的に取り組んだ「農業経営実践」では、6次産業化の取組み等、より有利な農業経営を組み込んだ経営学習を行ったところ、生徒の意欲・向上の評価平均点は3.4となり、経営感覚の意識の醸成が図られたと考えられる。

(ウ) 各科の中核（農業）科目の内容・指導法の研究

専門科目の先行導入として、1年の「畜産」でプロジェクト学習を取り入れた。生徒の専門知識・技術に関する評価平均点は3.5であったため、生徒は学習への興味・関心が高まり、積極的に授業に参加し、専門的な知識・技術が習得できたと考えられる。

2・3年次の中核科目は、ほとんどの学科が「地域連携Ⅰ・Ⅱ」に置き換わるため、その科目の目標や指導内容を作成した。

(エ) 普通教科との連携強化の研究

普通教科において、栽培作物を教材として利用した教科があった。生徒の評価平均点は殆どの項目で3.0であったため、自分たちの栽培・管理した作物等を利用したことで、興味・関心を持ち、意欲的に取り組んだものと考えられる。

また、学習内容を身近に感じるにより普通教科への興味・関心が高まったようである。

(オ) 専門学科講師派遣事業の内容の研究

①キャリア教育に関する分野、専門知識・技術に関する分野

レポートの感想や生徒の興味・関心、知識・理解の項目の評価平均点は3.1以上であることから、専門分野の認識や興味・関心が高まり、多くの専門知識が習得できたことが伺える。

②大学講師による分野

講演対象生徒は、本事業での地域連携活動の中心となる農業クラブ研究部生徒を中心に講演会を開催した。生徒は、積極的な姿勢で講演に参加し、生徒の評価平均点は3.2以上であったため、今以上に学習意欲が向上したものと考えられる。

(カ) 勢多農林直売所を活用した流通学習の指導法の研究

直売所の設置場所は、授業との関連性、駐車スペース、安全面、動線等を考慮し検討した。農産物流通学習の販売会は、年2回開催し、植物科学科3年の生徒が来場者を相手に生き生きと取り組んでいる姿が見えた。また、来場者とのコミュニケーションもとれ、消費者ニーズの理解に努力している姿が伺えた。

(キ) 学科間連携の研究

『地域連携の研究の「桑の葉パウダーを利用した地方創生プロジェクト」』に全学科相互乗り入れの形で学科間連携に取り組んだ。

個別の学科間連携は、当面、前述のプロジェクト活動を中心に行い、その後検討していくこととした。

(ク) 評価法の研究

打ち合わせや視察研修等を学期1回以上行い、ルーブリック評価を作成した。

イ 地域連携の研究

(ア) 地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動の研究

学科相互乗り入れのプロジェクト活動は各学科の各々の取組みがスタートした。また、地域資源を活用したプロジェクト活動を一層推進することにより、取り組んだ生徒の地域貢献に関する評価平均点は3.3であり、生徒の地域貢献の意識が高まったと考えられる。

(イ) 高大連携事業の研究

バイオテクノロジー科、動物科学科、緑地土木科の3学科が、大学との連携事業に取り組み、高度な知識・技術の習得が行えた。

(ウ) フィリピン大学ロスバニヨス校附属ルーラル高校との交流活動の研究

参加生徒11名、引率教諭3名で9泊10日の研修が実施できた。

参加した生徒の評価平均点は全ての項目で3.5以上となり、異文化や日本農業への理解が深まり、充実した研修を送れたことが伺える。

(エ) 連携先のネットワーク構築の研究

各学科で各々取り組んでいた事業を1つのフォルダにまとめることができた。新規連携先は、インターンシップ受入先を中心に増えている。

ウ キャリア教育の研究

(ア) 系統的なインターンシップの研究

生徒の日誌の記入状況や事後の生徒の様子、生徒の評価平均が3.0以上のことから、専門分野への理解が深まり、専門知識・技術が習得できていることが伺える。また、受入企業からのアンケートや巡回指導での生徒の様子等から、人間的に成長していく姿が伺えた。

(イ) 専門科目内でのキャリア教育の指導法の研究

1年次は「農業と人間」を中心にキャリア教育に取り組み、2・3年次は、各学科の専門科目内でインターンシップと関連させながら、勤労観・職業観の育成を図った。

○実施上の問題点と今後の課題

ア 学習指導法等の研究

- ・「農業と環境」では、プロジェクト学習を中心に学習展開することにより専門的な知識・技術やプロジェクト学習法の基本が身に付いた。2・3年次の学習を進めていくためには、よりプロジェクト学習法の理解度を高めていく必要がある。
- ・「農業と環境」と「農業と人間」は、連携を図ることにより個別の知識・技術を高め、農業や関連する専門分野、また地域への理解を促し、「課題発見力」を育成することが目標であり、その目標を達成するため、これまで以上に連携を深め、指導内容と方法を工夫することが必要である。
- ・専門学科講師派遣の事業では、専門科目内での適切な位置付けと適切な時期での計画・実施が必要である。

イ 地域連携の研究

- ・学科相互乗り入れのプロジェクト活動は、本校においては初めての試みとなる。今後は、それぞれの学科の特性を生かした連携を幅広く組み入れ、地域を巻き込んだプロジェクト活動に仕上げていきたい。

ウ キャリア教育の研究

- ・インターンシップは、学校と受入企業との連携をこれまで以上に図り、取り組んでいくことが必要である。
- ・3年間を見通したポートフォリオを早急に作成していきたい。

※研究項目の統合

本年度の研究を終え、内容的に重なる部分が多い以下の研究を統合することとした。

- ・「各科の中核（農業）科目の内容・指導法の研究」は「地域連携Ⅰ・Ⅱ」の研究へ、「学科間連携の研究」は「地域資源を活用した農業クラブプロジェクト活動の研究」へ統合する。